

「狩つと」

自治労石狩地方本部	青年部第3	発行本集	発行者 樹磨
責任者 淳拓	責任者 藤拓	編集者 藤拓	

第31回自治労北海道青年部夏期青年部夏期交流集会開催



交流集会の様子

第31回自治労北海道青年部夏期交流集会は、全道から集まった仲間たちと交流し、まなびあい、あらゆる合理化を跳ね返し、地方自治確立にむけ産別闘争を組織する事をメインスローガンとしています。7月10日～12日の日程でおこなわれ、今年は今全道から332人の仲間が集結しました。

まず、1日目の文化交流では3つの構成詩が披露されました。構成詩とは、日々の労働の中から実態とし

て出てくる不安や悩みを我慢せず、「声」に出すことによりその問題を共有するお芝居のようなものです。

一つ目の内容は、後志地方本部による、これから導入される人事評価制度についてでした。民間でうまく機能しなかった人事評価制度を、これから導入しようとする事に対する疑問や、評価の格差により共に困結していく仲間たちの絆を断ち切るような内容に対する不満を見事に演じきっていました。

二つ目の内容は、釧根地方本部による、厚岸町職の統一要求書提出までの流れについてでした。年々減少する青年部員数や活動の中心を担ってきた世代が次々と卒業していく中で、残った部員達が「このままではだめだ」「青年部をなくしてはならない」という強い思いを胸に、活発な組合活動を実施する事により青年部を立て直し、結果として基本組織との統一要求書を当局へ提出する流れが描かれました。

三つ目の内容は、今回夏期交流集会在開催された檜山地方本部による、バラバラの檜山地方本部が夏期交を受け入れるまでの軌跡についてでした。四役の情報共有がおろそかでそれぞれが責任逃れ、幹事は四役の指示待ちで当事者意識が不足しており、四役と幹事の仲は最悪だと認識している中で、夏期交流集会の開催という大きな課題を自ら引き受ける事により、それまで険悪だった仲間たちの絆を結び直し、一つの大きな課題を達成する事により団結する事の大切さを再確認した経緯を熱演していました。

話を聞くだけではなく演技を通して見る事により、それぞれが抱えている思いを率直に感じる事が出来たと思っています。

構成詩とそれを見守る方々



2日目の基調講演では、「人事評価制度がやってくる」と題し、人事評価制度の導入が何を目的としているかを学びました。

民間で導入された目的は、人事評価を賃金にリンクさせる事により企業の業績を伸ばす事でした。高評価の人間の賃金を上げ、その分他の人間の昇給幅を削る事により、賃金体系の合理化を図る意図がありました。しかし、その結果チームワークがなくなり、以前に増して退職者が増え、民間での人事評価導入は失敗に終わったのです。その人事評価制度をこれから導入しようとする事がとても疑問に感じました。特に公務職場は評価のできない部分が多く、その部分はこういった形で評価していくのか具体的な説明もなまま導入を進めている現状にとっても不安を覚えました。

今回の基調講演は、そういった事を改めて考える事が出来るとても良い機会だったと思います。

実行委員として
奔走した



多田副部長
北條書記長



基調講演の後には職種別分散会がおこなわれました。

同じ業務をおこなっている仲間たちとの交流を通して、自分の職場では気にも止めていなかった事が実は異常な現状である事に気づかされたり、逆に、自分では当たり前だと思っていた職場環境が他と比べると恵まれていると気づく事が出来るなど、普段触れあう事のできない他の仲間たちの話を聞く事はとても勉強になると感じました。

2日目の夜には地方本部別交流会がありました。お酒を交えながら交流する事で、普段聞けないような話を聞くことができとても有意義なものでした。その中で、せたな町のご当地キャラクター「せたなマン」の乱入がありました。交流会会場を縦横無尽に走り回り、ご当地クイズ大会などで会場を大いに盛り上げてくれました（その頑張りで簡易テーブル1台破損）。



町長非公認(笑)
せたなマン

3日目には分散会報告と中央行動および平和の旅報告、閉会集会をおこない第31回自治労北海道青年部夏期交流集会は終了しました。

今回交流集会に参加した事で、普段はあまり見聞きする事の出来ない様々な話を聞くことができとても良い経験ができたと思います。

来年は、後志との地方協もありますので、たくさんの方々のご参加を心からお待ちしております。



たくさんの参加
ありがとうございました！！

仲間がいれば
なんでもできる♪

